



人権=心のマーク

人権啓発紙

輝きびと

R3.3.15

No. 112

発行者 ● 大津市政策調整部
人権・男女共同参画課
TEL 528-2791・FAX 527-6288

第44回 わたしと人権 ～入賞者決まる～

「人権を守る大津市民の会」では、すべての人がこの大津に住んで良かったと思えるようにという願いと期待を込め、「人権」に視点を当てた活動を続けています。
このたび第44回「わたしと人権」作品の募集を行い、園児から一般の方々まで幅広い市民のみなさんのご応募をいただきました。
今号は、これらの特別賞の作品を一部ご紹介いたします。それぞれに記された貴重な体験や思い、願いから、自分や他人の人権について考えてみるきっかけづくりになれば幸いです。

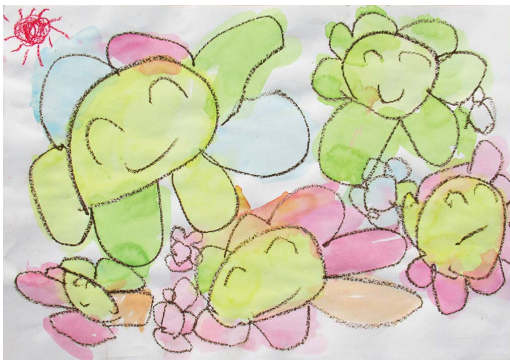
ポスターの部 特別賞



***すこやか賞**
田上小学校 4年 井門 友哉さん



***ふれあい賞**
堅田中学校 3年 小林 莉子さん



***ほのぼの賞**
坂本幼稚園 3歳児 牛場 絢土さん



***さわやか賞**
瀬田南幼稚園 5歳児 小松 夢さん



***ときめき賞**
志賀小学校 2年 中野 ひまりさん

標語の部 特別賞

- ほのぼの賞** 皇子山中学校 3年 辻 七海さん
思いやり みんなの笑顔を 咲かせる「種」
- すこやか賞** 堅田小学校 3年 今田 鈴奈さん
ほめ、ゆずるそれをおこなう君、すごい!
- ふれあい賞** 中央小学校 6年 松下 愛加さん
大切な 友達の変化 気がついて
- ときめき賞** 打出中学校 3年 祖父江 優成さん
また見たい マスクの下の あの笑顔
- さわやか賞** 葛川小学校 2年 田尻 真宏さん
「それいいね」 みとめてくれるといいきもち

作文の部 特別賞

*すすいやか賞

うれしかったこと

聖田小学校 2年 中谷 咲希さん

わたしは、きゅう食とごつ番で、牛にゆづをくはるかりでした。ごつ番をする前に、手をあらうのと、くすえのじょうごをしなければなりません。けれども、わたしは、トイレに行きたかったので、トイレに行きました。そして、少しおへれてしまいました。

じょうごへの紙を先生にもらいにきました。その時、友だちが先にならんでくるのに、「かわってあげる。」

と、言ってくれました。たぶん、わたしがきゅう食とごつ番だったからかわってくれたんだと思います。「ありがとう。」

と、言いました。友だちは、みんなのためにかわってくれたんだと思います。牛にゆづをはやくくはらないと、いただきますが言えないからだと思います。友だちは、とてもやさしいです。とても、うれしかったです。

*ふれあい賞

心の鏡



滋賀大学教育学部附属小学校 5年 山本 桃禾さん

「ありがとう。」

そんな言葉をだれかから言われたら、自分の心は

ポカポカあたたかくなります。生活する中でも当たり前のことです。では、

「ありがとう。」

と言った人の気持ちはポカポカあたたかくなるのでしょうか。私は同じように友だちに

「ありがとう。」

と言ったことが何回もあります。「ありがとう。」と言った側の人は、心があたたかくなりたいと思つかもしれませんが、私は心がポカポカあたたかくなりました。

私のよつこ、

「ありがとう。」

と言った時、言われた時、どちらの立場でも心がポカポカあたたかくなります。一人が

「ありがとう。」

と言ったもう一人も心があたたかくなります。『鏡』もそうではないでしょうか。自分が笑つと鏡の中の自分も笑つ。そんなことは当たり前だったり前です。でも、心も鏡も本当の自分を相手に知ってもらえるのではないのでしょうか。

「ありがとう。」

と言った人、言われた人の本当の自分が鏡のように、映し出されるような気がします。それに、

「ありがとう。」

と言った人、言われた人の気持ちも鏡と同じでみんなが一緒の気持ちになるのではないのでしょうか。ふだんの生活の中で当たり前前に使っている言葉ですが、その言葉は心の鏡に映し出され相手の心にも映し出されます。そうすると自然に自分も相手も心がポカポカあたたかくなっています。心があたたかくなると「思いやり」や「笑顔」がたかさんふえてい

きます。その心の鏡を世界中の人がうまく使えると世界はポカポカになります。でも、反対に、

「ごめんなさい。」

と言ったら心の鏡に映し出されてしまい、相手も自分も心はポカポカしません。だから、心の鏡はうまく使わないといけません。世界中の人の心が冷たくならないように、ふだんの生活であたたい言葉と心の鏡をつまく使って世界中がポカポカあたたかくなるように、まずは、私たちのクラスや家族から心の鏡をつまく使うことをがんばっていききたいです。

*こめき賞

つごめ形

打出中学校 3年 石山 愛莉さん

先日たまたまテレビで放送されていた映画「^{こえ}聲の形」を見ました。アニメだし気楽な気持ちで見えたのですが、思いがけず深い内容にはっとさせられました。

「^{こえ}聲の形」は耳の聞こえない女の子が同じクラスに転校して来るところから始まります。始めはクラスの皆が彼女に気を遣って優しく学校生活を支えていました。けれど、彼女が友だちを作ろうと努力する行動が皆の足を引っ張る形となり、クラスで浮く存在になってしまいます。彼女がいた女子グループでも、必死に筆談で話の輪に入ろうとする彼女の姿が段々と面倒に思え、皆が愛想笑いで済ませ彼女を「いない存在」として扱い、今まで通りの日常を過ごすようになっていくのです。また「ごつせ聞こえないし。」と彼女をからかい悪口を言い始めました。移動教室があっても誰も教えない。声をかけな

い。彼女が「何の話をしていたの?」と尋ねても、誰も愛想笑いを浮かべるだけで説明しようとしな
い。それでもめげずにクラスに馴染もうとする彼女の
強い心に感心しつつも、その前向きな姿が悪い方
へ作用しないか不安になりました。案の定、次第に
彼女の事をまるで空気のようになつて扱ふようになり、本
格的ないじめに発展していきます。

耳の不自由な人にとって補聴器は大切な物です。
中にはとても高価な物もあり、50万円を超す高性能
な物まであると聞いた事があります。その価格も分
からない、ましてや使った事もないような子どもが
平気で奪い、破損させて返すことの繰り返し。また、
耳が聞こえない人は話すことや発音が苦手な事が多
く、上手に言葉になりません。それをバカにしたも
のまねで笑つてクラスメイト…。もちろん直接的な暴
力はないし、からかっている程度の認識しかなかつ
たクラスメイトは大勢いたと思います。最終的に彼
女が「いじめが原因で転校することになって初めて
気がつく重大さ。そこからは自分のした事の罪悪感
が各目の心にすつと残り、いつまでも抜けないトゲ
のようになつたまま時間だけが過ぎてゆく日々。

この映画を見た私は、いじめにも色々な種類があ
り、それをいじめと思うか思わないかは人によつて
違つという事を改めて感じました。直接的な暴力や
嫌がらせ以外にも、無視はしなければ仲間にも入
れない。必要な事さえ聞かなければ教えない。透明
人間のように扱ふ事も立派ないじめだと思つてく
く思
いました。もちろん障害のある人だからといって過
剰な気遣いや特別扱いが良いと言つてもいいありま
せん。でも、もう少しクラスの一人ひとりに思いや
りや気配りがあったら、きっと違つた結果になつたと

思います。「言ひは易し行ひは難し」だとは思いま
すが、少しでもそつという行動がとれる大人になりた
いと、強く感じました。

紙面スペースの都合により、全ての作文の部・特別賞作品
を掲載することができませんでした。作文の部・特別賞を
受賞された方で作品未掲載は、次の方々です。

***ほのぼの賞**

帰り道のやせこね

膳所小学校 4年 本田舞衣さん

***さわやか賞**

性のあり方と当事者

堅田中学校 3年 萩原璃子さん

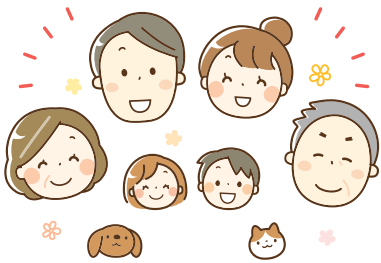
詩の部 特別賞

***ほのぼの賞**

やせこね

滋賀大学教育学部附属小学校 2年 園山哲平さん

母に やせこね
父に やせこね
兄に やせこね
姉に やせこね
弟に やせこね
妹に やせこね
先生に やせこね
友だちに やせこね
一番 いいのが
だれにも やせこね



***すじやか賞**

みんなのふじつ

瀬田東小学校 4年 岡本玲さん

わたしは はしで食べるけど
君 は 手 で食べるんだ
わたしは はしで食べるのふじつ
君 は 手 で食べるのふじつ

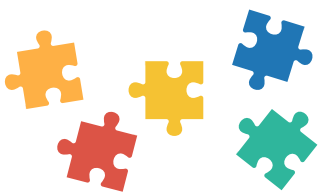
みんなふじつがちがうから
わたしとちがってもおかしくない
みんながみんな同じじゃない
みんなちがって
おもしろい

***ふれあい賞**

ピース

膳所小学校 5年 鈴木ちはるさん

一人ひとりがパズルのピース。
一人かけると完成しない。
仲間はずれに
すると完成しない。
一度失つともどらない。
みんなで一つのパズル。
一人ひとりが主役のパズル。
みんなで作りあげよう。



***ときめき賞**

いつまでも大切にしたい心

中央小学校 3年 大谷 優奈さん

思いやりって何だろう。

何かをあげること？ たのしみ？

いいえちがいます。

思いやりはだれかの心やだれかのことを思うこと。

なにもできなくていい。

なにもしなくていい。とにかくその人のことを思い

つづけること。

この心はごまでもつよくになれる。

そして、世界の何よりもすてきなものや、たからもの

になる。

この心をいつまでももちつづけたい。

***さわやか賞**

一秒一秒たらしせつに

日吉台小学校 5年 山本 理彩さん

一秒一秒たいせつにしつに

一秒で人をきずつける言葉もある

一秒で人をすくえる言葉もある

一秒で人とわかる言葉もある

一秒で人をする言葉もある

一秒でいろんなことが出来る

みんなで一秒一秒をたらしせつにしつに



その他の部 特別賞

その他の部は、人権についての自分の考えや学級など集団の思いが作文・詩・標語・ポスターの4部門以外の方法で表現された作品部門です。

***ほのぼの賞**

仰木の里東小学校 共同作品 2年2組さん



***さわやか賞**

堅田小学校 共同作品 4年4組さん



※人権を守る大津市民の会は、現在、地域、職域を合わせて23団体が結集する市民団体です。駅頭・街頭啓発をはじめ人権作品の募集や入賞作品展の開催など、幅広い啓発活動を市民ぐるみで展開しています。

あとがき

今回、特集した「わたしと人権」作品には、日常生活の中での人との触れ合いを通じて感じたこと、社会の問題に対する自分の考えや豊かな人間関係を築いていこうとするメッセージなど人権についての作者の各々の思いが詰まっています。

今号の作品をご覧いただくことで、市民の皆さん一人ひとりが人権を尊重することの大切さについて、今一度振り返っていただく機会になりましたら幸いです。

ご意見やご感想は

〒520-0047 (大津市浜大津四丁目1-1) 明日都浜大津1階

大津市政策調整部人権男女共同参画課

(05628-2761)まで